

平成25年度伊佐沼すまいる保育園事業報告書

1 保育園の概要

(1) 所在地：川越市大字古谷上2237番地1

(2) 定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児以上	合計
8人	10人	10人	10人	22人	60人

(3) 平成25年度3月1日の園児数

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児以上	合計
8人	12人	12人	12人	25人	69人
職員4名	職員5名		職員3名		25名
ひろば・一時預かり・フリー			職員13名		
事務			1名		1名
園長			1名		1名

(4) 事業年度 平成25年4月1日～平成26年3月31日

(5) 開園時間 午前7時より午後7時

保育時間（平日）

通常保育時間	8時30分～16時30分
特例保育時間	7時00分～8時30分（朝）
	16時30分～18時00分（夕）
延長保育時間	18時00分～19時00分

保育時間（土曜日）

通常保育時間	8時30分～12時30分
特例保育時間	8時00分～8時30分（朝）
延長保育時間	12時30分～13時30分（夕）

(6) 平成25年度の特記事項

3才～5才（月・星・宙）の異年齢保育に加え、平成25年4月中旬より1歳児（華組）・2歳児（虹組）の部屋の間仕切りを取り外し、一つの空間とした。乳児については1～2才が一体となったことで、保育士間のコミュニケーションが改善され、一時預かりの児童の受け入れや対応もスムーズになった。0才～2才児の担当保育士による乳児会、3～5才児の担当保育士による幼児会、フリー保

育士によるフリー会を毎月2回、全体会を月1回、乳幼児のリーダーと園長事務長による三金会を毎週開催、意見の調整や問題点について、きめ細かく対応した。職員は配置基準を踏まえ、1～2才、24名の子どもを5名の保育士で異年齢保育を行った。

2. ワーキンググループ活動について

各職員が保育園全体の保育について、ワーキンググループを通じ一貫性ある保育を実施するとともに、スキルアップを図り成果を園全体で活かすことができた。

名称	活動内容
安全・衛生 (毎月1回)	保護者の意識を高めるためより、保護者に対して6月と2月「安全な衣料」に関するキャンペーンを実施し意識の向上に努めた。熱中症対策週間や保健便りや安全のニュースを発信した(「3. 安全安心について」ご参照)
食育・畑	<p>栄養や食べ物の知識、畑での収穫、季節の食文化体験等を通じ、生きる力を育むことができた。</p> <p>食育：毎月1回のワーキンググループにより昼食の献立について検討を行い、給食会議にて SHIDAX と調整し四季折々の旬な食材や魚を増やすなど昼食献立を改善した。</p> <p>誕生児のリクエストを取り入れた誕生食やクッキーづくりやお団子作り、カレーライス作成やクッキング活動等、子どもたちの食への関心を高めることが出来た。</p> <p>保護者に向けて7月を食育月間とし、朝食をとるためのキャンペーンを行った。また SHIDAX のものに加え園からもレシピや食育便りを発行した。</p> <p>セミバイキング形式において、保育士がアレルギー食を管理、食事の量について全児童が適量を摂取できるよう配慮した。</p> <p>昼食を食べられない子がいた場合、衛生管理の観点より昼食の保存時間の制約がある為、午後の補食でおにぎりやうどんなどを提供し対応をすることとした。</p> <p>畑：たまねぎやトマト、きゅうり、じゃがいも、サツマイモ、ねぎ、大根等、新井勲様の指導の下、季節の野菜を収穫し、調理活動や販売体験等、子どもたちの経験を増やすことが出来た。</p>
研 修	平成 25 年度は園内研修 15 回、園外研修 18 回を実施、述べ 230 名以上の職員に対し研修を行った。

	児童虐待や個人情報に対する配慮についての研修や、安全・保育内容について研修した
--	---

3. 平成 25 年度の保育について

(概 要)

大きな事故もなく、保育所保育指針を基本に、子どもたちを主体にした見守る保育を実践した。イベントや活動について、保育理念に沿った内容となるよう活動を確認する「すまいるリスト」を作成、職員が理念を共有した。また1～2才について保育空間を一体化、異年齢保育を実施した結果、子どもたち同士が助け合い、学び合う姿が多く見られた。生年月日で機械的に分け活動を行うことがなくなったため、活動の設定のために個々の発達の様子をよりよく見ることとなり、発達に即したグループ活動が増えた。1歳児は2歳児の真似をすることで、また2歳児は1歳児の面倒を見るなど、知能や情緒の発達が顕著にみられた。

- (1) 週4日以上を園外活動とすることで、農道や畑、農業ふれあいセンターや神社、運動公園や伊佐沼冒険の森、伊佐沼公園、荒川の堤防など、伊佐沼周辺の自然を四季折々に楽しむことができた。また、自然の中での保育を先進的に実践している「けやの森学園」を園外保育先として訪問し、同園が所有する里山で自然体験をすることができた。
- (2) 日々の保育や生活に子ども自身の考えや選択が反映されるような工夫を取り入れた。行事・イベント・式典等については、子どもが主体的に参加し楽しめるものを目指し、例えば大人から見て見栄えのいい姿や作品を作るために、子どもを訓練したり特訓したりといったことをせず、主体性を損なわないことを心がけた。
- (3) お誕生会では、保育士主導で子どもにショーを見せる行事をやめ、子どもが主体となり遊ぶ行事へと切り替えた。その結果、園外でのお誕生会等やコーナーの設定など子どもが選択できる機会を増やした。
- (4) 夕涼み会では子どもたちの発案で、段ボールの「山車」3体と「時の鐘」を制作、夕涼み会当日に実際に地域で子どもたちが制作した山車を引いた。
- (5) ウィンターフェスタでは、子ども自身が好きな絵本を題材にストーリーや登場人物をアレンジし、小道具や衣装も子どもが工夫をしながら組み立て作りあげていった。フェスタ当日には、子どもがストーリーを展開させ作り上げていく様子をビデオで紹介し、当日の発表に至るまでの過程を丁寧に紹介した。その結果、保護者の方に園の考え方を伝えることが出来た。
- (6) 子どもへの選択肢を確保するため幼児については日々の活動については遊具を選ぶ選択ボードを設置、プールやダンスなどは難易度を3段階設

定、自らが活動を選択した。

(7) 異年齢保育の進展により、進級がスムーズになった

異年齢保育が進展した結果、次年度の進級に向け1～2月頃より、次の進級クラスとの活動が増え、また卒園生は小学降との交流を広く持つことが出来た。4月以降の保育の連続性を自然な形で確保することができた。

	主な出来事	その他
4月	入園式・進級式 慣れ保育 泥んこ遊び	園庭側に避難門設置 自治会長より蓮の花寄贈 避難訓練
5月	子どもの日 保護者総会 児童向防犯指導(埼玉県警ひまわり)	園庭でのお誕生会 避難訓練
6月	子ども安全週間 総合防災訓練(煙体験) クラス懇談会	伊佐沼農産物直売所(買物体験) 地域の方より笹を寄贈 トマト販売 避難訓練
7月	七夕 プール開き 夕涼み会	アメリカ保育ボランティア 流しそうめん用竹寄贈 避難訓練
8月	すまいるの日(卒園生)	流しそうめん バーベキュー カレーパーティー 避難訓練
9月	敬老の日 プール納め	避難訓練
10月	子どものいのちと安全を考える週間 総合防災訓練(地震体験)・引渡訓練 救命救急講習 焼き芋大会 ハロウィン	稲・もみ殻・脱穀前のお米 アメリカの幼児施設と絵の交換
11月	宙組観劇会 けやの森学園秋の遠足	農道整備
12月	ウインターフェスタ お餅つき	

1月	ねぎ・大根販売 宙組就学準備	中学生職業体験 冬季に畑を解放
2月	節分 お別れ遠足 クラス懇談会 小学校訪問 雪遊び	入学予定の小学校をすべて 訪問、ひとり3校以上
3月	ひなまつり 保護者総会 卒園式 お別れ会	

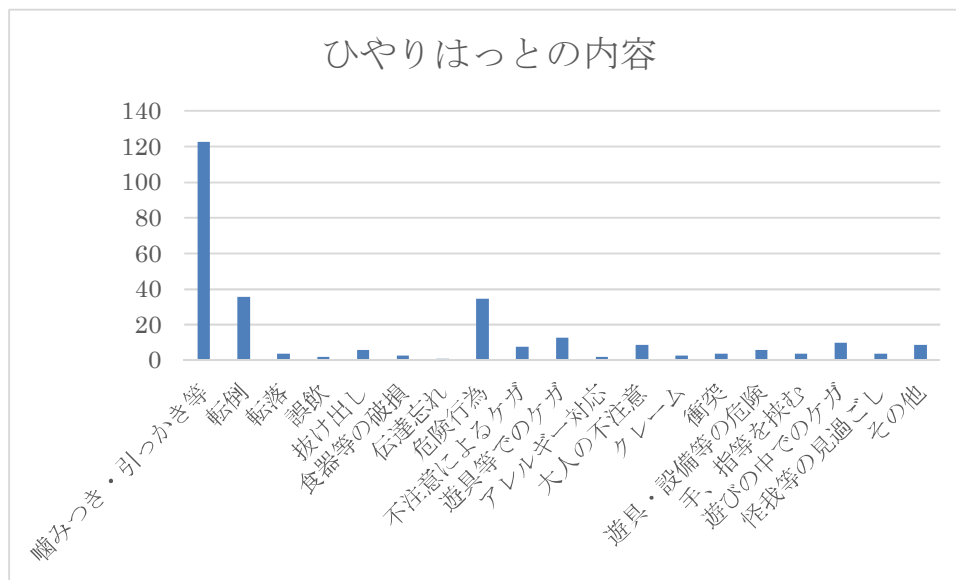
4. 安心安全について

(1) ワーキンググループによる活動

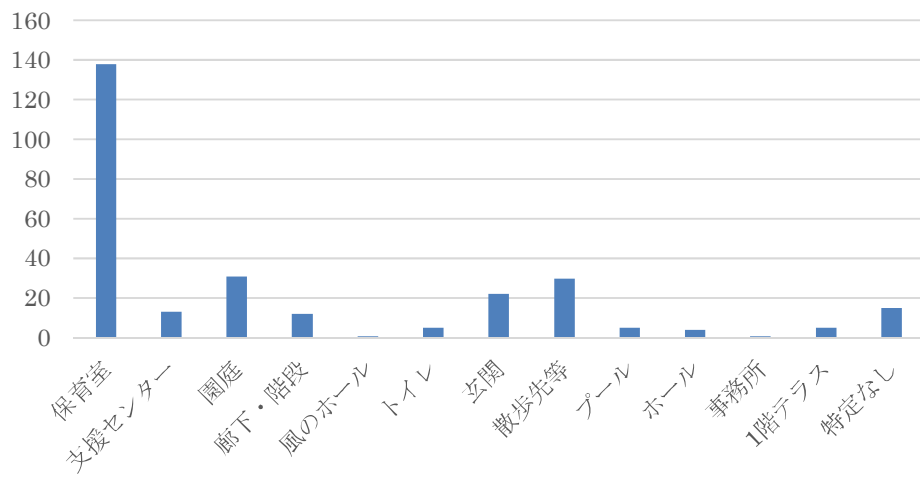
安全安心については、本年度もワーキンググループを設置、担当職員は研修に参加し他の職員の意識を高めたり、毎月の活動の中で安全について意識を高めることが出来た。

(2) ひやりはっとを通じて意識の向上

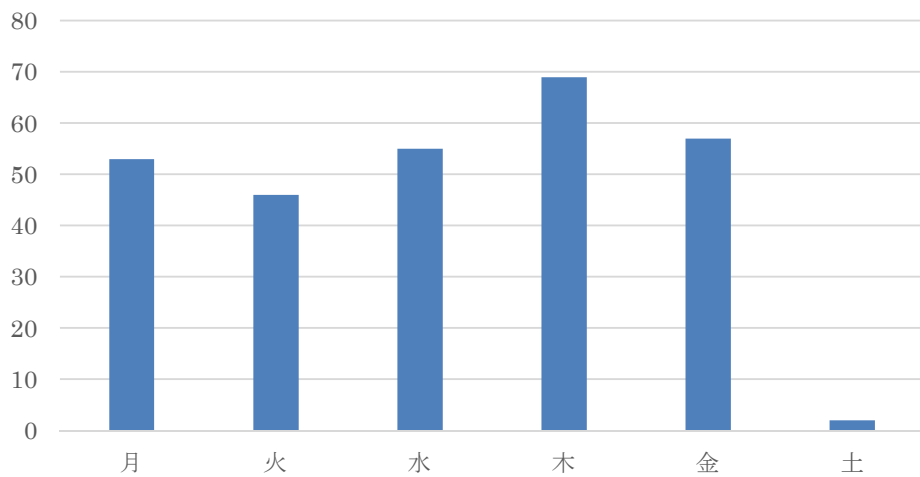
ひやりはっとは日々の昼礼で確認し報告し改善を図った。報告件数は285件となり、ひやりはっとが報告された都度、こまめに点検をし対応をした。



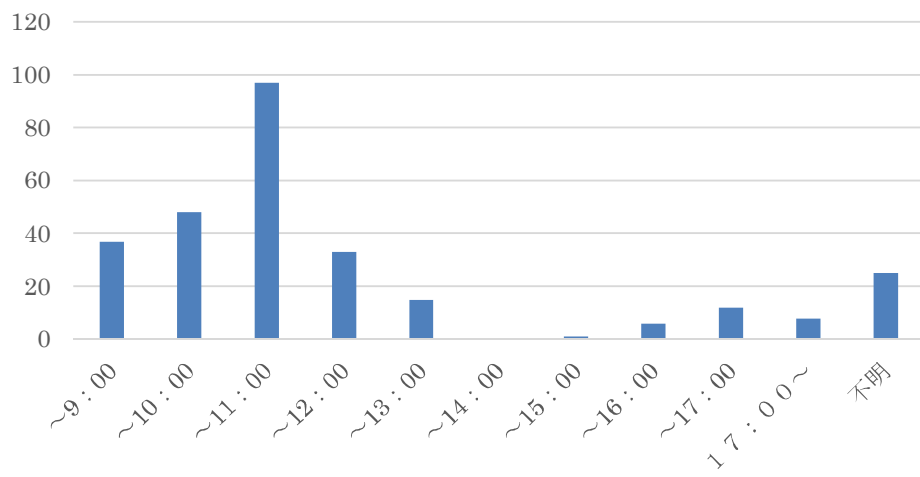
発生場所



発生曜日



発生時間



(3) 毎月の初期消火訓練 年2回の総合防災訓練と普通救命救急講習
毎月一回義務付けられている初期消火訓練・年2回の総合防災訓練の他、10月を「子どもたちの命を考える月間」として、緊急避難場所である農業ふれあいセンターで全児童の引き渡し訓練を行ったり、臨時職員を含む全職員と有志の保護者を対象とする乳幼児のための普通救命救急講習を保育園内で実施、約30名がAED等の使い方や緊急時の対応についての講習を修了した。また、総合防災訓練では「煙体験」や「起震車」体験を行うことが出来た。

(4) SIDSの予防

SIDSの予防について1才6か月までの全児童の午睡時に10分単位でうつぶせになっていないか、呼吸の様子を確認。他のクラスの職員も別途輪番制でSIDSのチェックを行った。

(5) 子ども向け防犯訓練

本年度も在園児を対象として、さいたま県警ひまわり（警察）の方に園に来ていただき、園児自身が危険を避ける対処法や心得を紙芝居や人形劇で学ぶことができた。

4. 保護者の方との連携

保護者会と連携し園行事を共に作り出すことができた。昨年度同様、園と家庭で連動した絵本の読み聞かせを行い、保育参加を実施し保護者との保育の連携を強め、ホームページ・園だより、クラス便り等、タイムリーで温かい情報提供を行った。また、インターネット経由での写真提供を開始した。

5. 地域の方との連携

子育ては家庭・園だけではなく、地域の見守りが何より大切です。本年度も地域の皆様方より温かい見守りと支援をいただきました。

(1) 自治会を通じて園周辺の農道を整備していただき、保護者の送迎時の混雑を緩和することができた。

(2) 畑・収穫体験や調理・販売体験を行うことができた。

(3) 伊佐沼農産物直売所の方にご協力をいただき、買い物体験をすることができた。

(4) 冬季に畑を遊び場として開放頂き、使わせて頂いた

(5) ハロウィンでは今年も地域の方の協力を得て、実際に子どもたちが各家庭を訪問しお菓子をいただいた。また同イベントを通じて知り合った地域の方との交流から海外の施設の子どもたちと絵の交換など交流が実現した

(6) 蓮の根や稲、流しそうめん用の竹や七夕の笹等、時々地域の方から支援をいただいた。

6 その他事業

つどいのひろば事業については、一般型（3～4日型）にて運営をおこない、年間約2,000名の方の利用があった。来年度より週5日型とし、利便性を広げていきたい。一時預かり事業については延べ約550人の利用があった。

7 各種点検等の実施状況

点検項目	委託業者	実施日
エレベータ	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	年12回（月1回）
総合防災訓練	川越北消防署南古谷分署	平成25年6月25日 平成25年10月18日
消防用設備等点検	（有）エムケイ防災 川越北消防署	平成26年3月7日
浄化槽法11条検査	（社）埼玉県環境検査研究協会	平成25年11月22日
簡易水道検査	（社）埼玉県環境検査研究協会	平成26年3月28日
内科検診	愛和病院	平成25年5月31日 平成25年11月19日
歯科検診	フジ歯科	平成25年6月7日

以上